

## 基調判断

(2021/7 月中心分)



**新**型コロナウイルスの感染再拡大の影響などから、生産活動は回復の動きが一服し、投資活動も弱含むなかで、個人消費は一部に厳しさはあるものの、底堅く推移するなど、総じて持ち直しの動きがうかがえる。

最近の国内経済については、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。このような状況のもと、当地経済をみると、

公共投資は、7月の公共工事請負金額は3カ月ぶりに前年を下回り、横ばい圏の動きとなっている（2021年4～7月累計の対前年比は0.3%増、全国3.9%減）。

設備投資は、2021年度は製造業、非製造業ともに前年度を上回り、全産業でも前年度を上回る計画（日銀短観測6月の全産業設備投資額は、2020年度実績対前年度比36.2%減、2021年度計画同8.7%増）。

住宅建設は、6月の新設住宅着工戸数が3カ月ぶりに前年を下回り、弱い動きとなっている。

個人消費は、大型店売上高（7月）は2カ月ぶりに、前年を上回った。乗用車新車登録台数（7月）は2カ月連続で、家電量販店販売額（6月）は9カ月ぶりに、それぞれ前年を下回った。底堅い動きがみられる。

生産は、6月の鉱工業生産指数（季調済指数）が、鳥取県は2カ月ぶりに前月を下回り、島根県は2カ月ぶりに前月を上回った。一部で部品や原材料の供給不足や価格上昇による影響がみられ、持ち直しの動きに一服感がうかがわれる。

雇用情勢は、6月の有効求人倍率が、鳥取県では前月差0.05ポイント上昇の1.44倍、島根県では前月差0.02ポイント上昇の1.50倍となった。一部に持ち直しの動きがみられる（全国は1.13倍）。

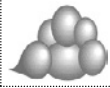
企業の業況判断は、足元、製造業、非製造業ともに改善し、全産業でも改善となった（前回▲8→今回▲6）。先行きについては、製造業、非製造業ともに悪化を見込んでおり、全産業でも悪化の見通しとなっている（日銀短観6月調査）。

このように、当地の景気は、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響などから、生産活動は回復の動きが一服し、投資活動も弱含むなかで、個人消費は一部に厳しさはあるものの、底堅く推移するなど、総じて持ち直しの動きがうかがえる。

先行きについては、感染状況に伴う不透明感が増すなか、国内外の需要回復の動向に振れが生じるなど、当面は緩慢な持ち直し基調が続くものと予想される。

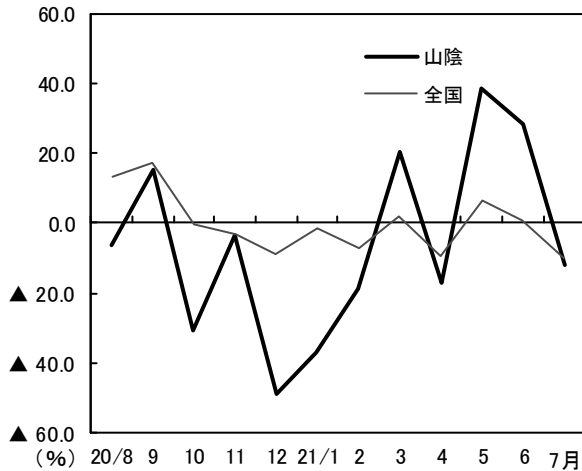
# グラフでみる経済動向

## 1. 公共投資



### 『横ばい圏の動き』

公共工事請負額（対前年比）



- 7月の山陰両県の公共工事請負状況は、件数が540件、請負額は前年比11.9%減の244億14百万円と、3カ月ぶりに前年を下回った。
- 請負額の年度累計（2021/4-7月）は、前年比0.3%増と前年を上回っている。

《資料出所：西日本建設業保証㈱》

## 2. 設備投資



### 『全産業で前年度を上回る計画』

設備投資額（対前年度比）

(単位：%)

	20年度実績	21年度計画	全国21年度計画
全産業	▲ 36.2	8.7	7.1
製造業	▲ 38.1	3.4	11.5
非製造業	▲ 27.8	29.7	4.5

- 2021年度の設備投資額（日銀短観21年6月調査）は、全産業で前年度比8.7%増（製造業同3.4%増、非製造業同29.7%増）と、前年度を上回る計画となっている。また、全国は全産業で7.1%増の計画となっている。

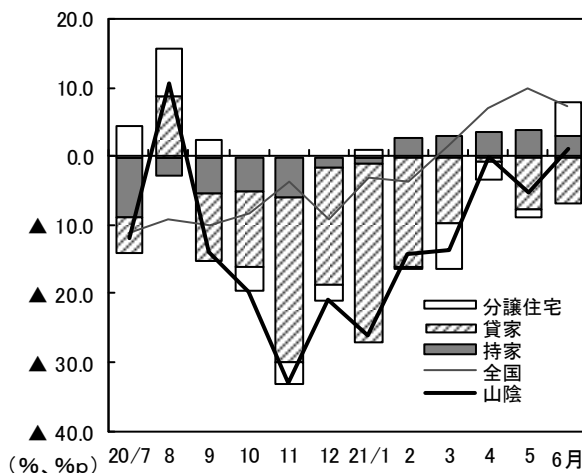
《資料出所：日本銀行松江支店》

## 3. 住宅建設



### 『弱い動き』

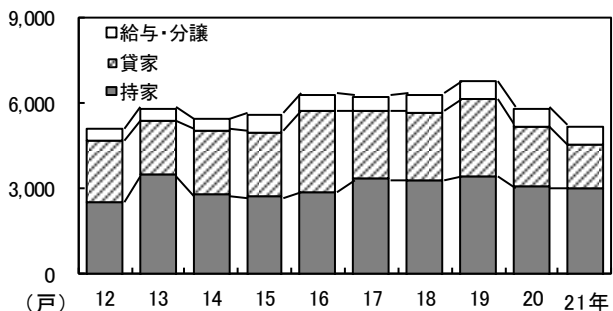
新設住宅着工戸数（対前年比、寄与度）



※「新設住宅着工戸数」山陰両県の対前年比は、全体、利用関係別寄与度ともに3カ月移動平均で表示している(ただし全国は単月)。

また、「利用関係別戸数」は、過去10年間における年間着工戸数の推移を利用関係別に示しており、うち2021年は年率換算の推計値を掲載している。

利用関係別戸数



- 6月の山陰両県の新設住宅着工戸数は前年比6.9%減の557戸と、3カ月ぶりに前年を下回った。また、全国は同7.3%増と4カ月連続で前年を上回った。

- 利用関係別にみると、持家（前年比0.4%増）、分譲住宅（同1.2%増）が前年を上回り、貸家（同18.8%減）は前年を下回った。

- 2021年累計（2021/1-6月）は、全体では前年比6.4%減と前年を下回っている（全国は同3.3%増）。また、利用関係別にみると、貸家（前年比23.4%減）、分譲住宅（同8.0%減）は前年を下回っている一方、持家（同5.9%増）は前年を上回っている。

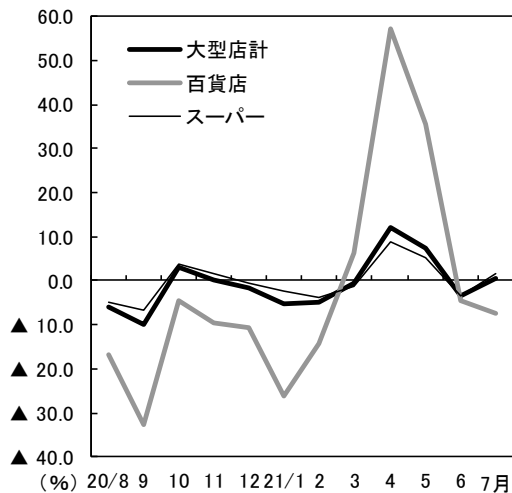
《資料出所：国土交通省》

## 4. 個人消費



## 『底堅い動き』

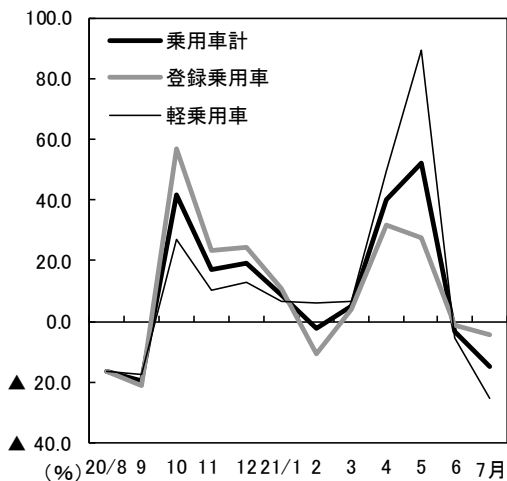
大型店売上高（対前年比）



- 7月の山陰両県大型小売店（約20社、速報値、当行調査先）の売上高は、155億38百万円で前年比0.5%増と2カ月ぶりに前年を上回った。
- 2021年累計（2021/1-7月）は、前年比0.6%増となった。
- 百貨店（7月）は、全体で前年比7.5%減と、2カ月連続で前年を下回った。豪雨、新型コロナ感染者数の急増が影響し、入店客数、売上高ともに減少した。外商により、一部高額品（美・宝・貴）は増勢が続いている。ただ、一昨年対比では18.5%減と依然として厳しい。
- スーパー（7月）は、前年比1.5%増と、2カ月ぶりに前年を上回った。一昨年対比では、2.7%減となった。
- 先行きについては、新型コロナの影響が続き、不透明感を払拭できないが、「軽減税率」、「マイナポイント事業」、GoToトラベル事業再開後の「地域共通クーポン」等による消費の下支え効果や、新型コロナのワクチン接種の普及による購買意欲の回復も期待される。

《資料出所：当行》

乗用車新車登録台数（対前年比）

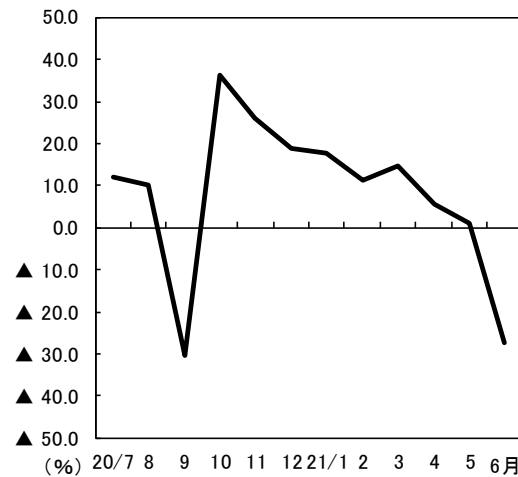


- 7月の乗用車新車登録台数は、登録乗用車（普通車、小型車）と軽乗用車合計で前年比14.9%減と、2カ月連続で前年を下回った\*（全国は同6.4%減）。
- 2021年累計（2021/1-7月）は、前年比7.2%増となり、前年を上回っている。\*【半導体不足に伴う減産の影響から、長納期化進展】
- 登録乗用車は、普通車が前年比3.3%増と、10カ月連続で前年を上回った。小型車は同11.4%減と、3カ月連続で前年を大幅に下回った。全体では同4.2%減と、2カ月連続で前年を下回った。
- 軽乗用車は前年比25.2%減と、2カ月連続で前年を大幅に下回った。
- 一昨年対比では、25.4%減と水準は低い。

※軽乗用車は「届出」の台数

《資料出所：中国運輸局鳥取運輸支局、同島根運輸支局、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会》

家電量販店販売額（対前年比）



- 6月の家電量販店販売額は、前年比27.3%減と、9カ月ぶりに前年を下回った。一昨年対比では、3.2%減となった。
- 6月は、昨年の特別定額給付金支給による特需の反動から、エアコンの販売をはじめ、ほとんどの商品の販売が振るわなかった。
- 2021年累計（2021/1-6月）は、前年比1.5%増となり、前年を上回っている。
- 先行きについては、新型コロナの影響が尾を引くことに加え、買い替えサイクル期にあたっているテレビ等の伸長が引き続き期待される。

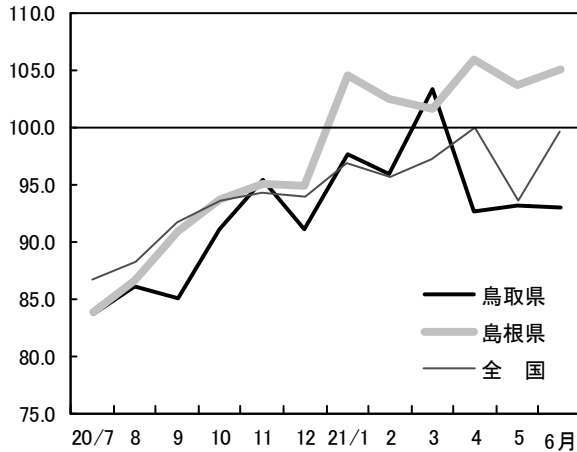
《資料出所：中国経済産業局》

5. 生産

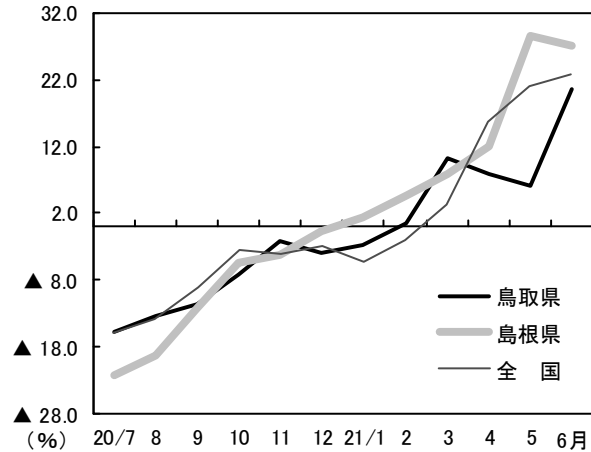


『持ち直しの動きに一服感』

鉱工業生産指数（季調済、2015年=100）



鉱工業生産指数の対前年比（原指数）



■6月の鉱工業生産指数（季調済、2015年=100、鳥根県は速報値）をみると、鳥取県は92.9で前月比0.3%低下し、鳥根県は105.0で同1.3%上昇した。鳥取県は2カ月ぶりに前月を下回り、鳥根県は2カ月ぶりに前月を上回った（全国は99.6で同6.5%上昇）。

■鉱工業生産指数の前年比（原指数）をみると、鳥取県は20.5%上昇し、鳥根県も27.2%上昇した。鳥取県は5カ月連続で、鳥根県は6カ月連続で、それぞれ前年を上回った（全国は同23.0%上昇）。

《資料出所：鳥取・島根両県統計担当課、経済産業省》

《個別動向》

■鉄鋼

特殊鋼は受注の持ち直しや在庫調整の進展により生産が上向いており、電子材料や産業機器材料のなかにはコロナ禍直前の水準に戻った製品もみられる。工作機械用鋳物は、大型部品用加工機械の需要持ち直しなどを背景に受注が上向いている。

■一般機械

農業機械は、海外向けは量販機種を中心に増産を続けており、国内向けも小型・安価な機種の需要が底堅く、生産能力の上限に近い状況で操業している。その他の機械についても、電子部品の生産用機械を中心に持ち直しの動きがみられる。

■電子部品・デバイス

高度な安全装備を搭載した自動車の増加や高性能な情報通信機器の普及などを背景に引き合いは強いものの、モジュールを構成する製品の生産状況が一様ではないことなどから一進一退の動きが続いている。

■輸送機械

自動車需要の持ち直しをうけて部品生産もコロナ禍直前の水準に戻ったものの、半導体不足などを背景に完成車メーカーの生産計画に変更が生じていることなどから一段の押し上げは期待しにくい状況にある。

■窯業・土石

生コンは、前年の道路工事の反動が残るなかで、公共施設の整備や工場の新設・増強などの継続案件が出荷を下支えしている。石州瓦は屋根材需要の変化への対応の遅れなどから低調に推移している。

■紙・パルプ

包装資材向けは包装の簡素化や贈答需要の低迷などを背景に弱含みで推移している。印刷・情報媒体向けについても、出版物の減少や電子メディアの増加などにより減少傾向にある。

■繊維

繊維製品は需要の季節変動による繁閑がみられるものの、国内需要の伸び悩みから、総じて低調に推移している。

■食品

内食需要にかかる商品は堅調に推移している。観光関連商品は観光支援策等の一部停止、外出自粛等から厳しい動きが続いている。

■木材・木製品

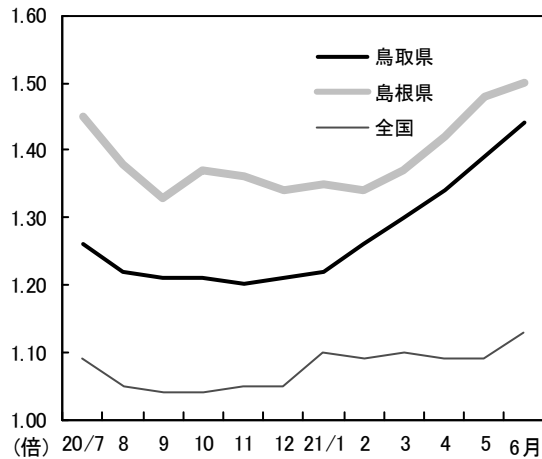
木製品需要は世界的な木材不足（原木・製材）に加え、これまでの生産調整の反動等もあり、持ち直しの動きがみられる。原木単価は輸入材の価格高騰の影響で、高止まりとなっている。

### 6. 雇用情勢



『一部に持ち直しの動き』

有効求人倍率（季節調整値）



- 6月の有効求人倍率（季調値）をみると、鳥取県は前月差0.05ポイント上昇の1.44倍、島根県は前月差0.02ポイント上昇の1.50倍となった。一部に持ち直しの動きがみられる。
- 全国は前月差0.04ポイント上昇の1.13倍となった。

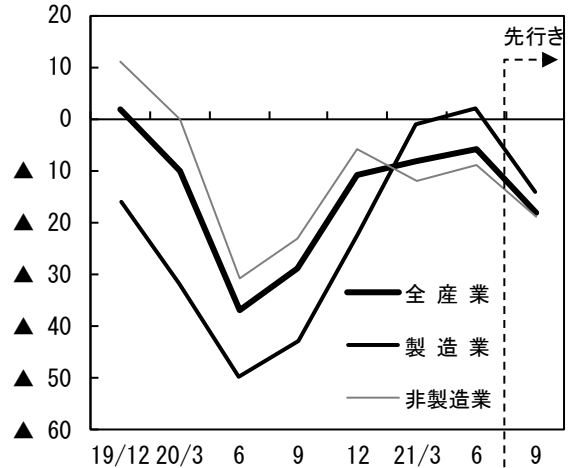
《資料出所：鳥取・島根労働局職業安定課、厚生労働省》

### 7. 企業の業況判断



『足元改善、先行きは悪化見通し』

業況判断D. I.（日銀短観6月）



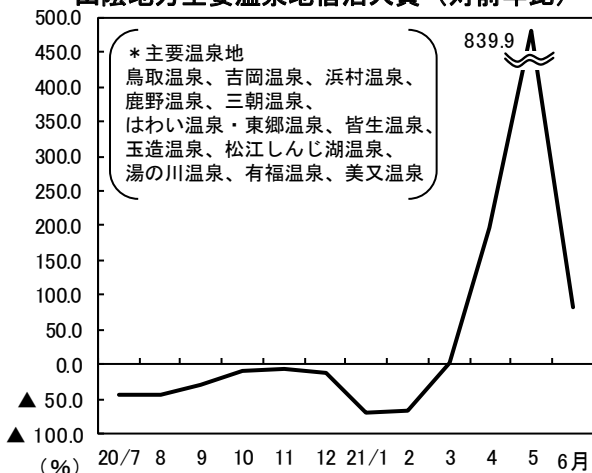
- 日銀短観（21年6月）によると、足元の業況判断は、製造業、非製造業ともに改善し、全産業でも改善となった（前回▲8→今回▲6）。
- 先行きについては、製造業、非製造業ともに悪化を見込んでおり、全産業でも悪化の見通しとなっている。

《資料出所：日本銀行松江支店》

### 8. 主要温泉地宿泊人員

『4カ月連続で前年を上回る』

山陰地方主要温泉地宿泊人員（対前年比）



- 6月の主要温泉地宿泊人員は前年比82.6%増の48,700人と、4カ月連続で前年を上回った。新型コロナウイルスの影響が強く残る前年と比べ、増加となった。
- 鳥取県は前年比88.7%増と3カ月連続で、島根県は同76.1%増と4カ月連続で、それぞれ前年を上回った。
- 2021年累計（2021/1-6月）は、前年比9.6%減と前年を下回っている。

《資料出所：当行》

### 9. 企業倒産

『件数、負債額ともに前年を下回る』

倒産件数、負債額（単位：件、百万円、%）

		21/7月		21/1~7月	
		実数	前年比	実数	前年比
製造業	件数	0	▲ 100.0	2	▲ 33.3
	負債額	0	▲ 100.0	294	24.6
建設業	件数	0	—	6	20.0
	負債額	0	—	790	22.3
卸売業	件数	0	—	4	100.0
	負債額	0	—	1,025	▲ 83.4
小売業	件数	1	▲ 50.0	6	▲ 33.3
	負債額	33	▲ 88.4	224	▲ 72.8
その他業種	件数	1	▲ 50.0	12	0.0
	負債額	20	▲ 86.0	1,051	▲ 74.8
合計	件数	2	▲ 66.7	30	▲ 3.2
	負債額	53	▲ 91.1	3,384	▲ 71.9

- 7月の山陰両県の企業倒産（負債額1千万円以上）は、件数は前年比66.7%減の2件、負債額は同91.1%減の53百万円と2カ月連続で前年を下回った。
- 倒産件数の年累計（2021/1-7月）は、前年比3.2%減と前年を下回っている。また、業種別では、建設業、卸売業で前年を上回っている。

《資料出所：㈱東京商工リサーチ》

お天気マークの5分類

明るい



一部に明るさ



停滞



不振



厳しい



注：マークの右肩の△は先月より上方修正、▼は同じく下方修正を示す。（ ）は修正の一手手前の状況。

マンスリー山陰経済

2021年9月

発行：株式会社 山陰合同銀行 地域振興部 産業調査グループ

〒690-0062

島根県松江市魚町10

TEL：0852-55-1000 FAX：0852-27-8249

無断転載を禁ずる